

椎塚貝塚・福田貝塚の土偶

1 椎塚貝塚と福田貝塚

茨城県の南東部に所在する霞ヶ浦は、日本第2の湖として知られ、総面積は約177km²に及んでいる。江戸時代以前は海水の流入する内湾であったが、江戸幕府による利根川の河道変更によって、内湾を形成していた霞ヶ浦も徐々に湖水化して淡水湖となった。江戸時代以前の霞ヶ浦沿岸地域は、良好な生活領域として存在し、縄文時代には多くの貝塚が形成され、古代には流海と呼ばれて、その景観は『常陸国風土記』にも記載されている。

この霞ヶ浦の南西岸には著名な貝塚が多く分布している。1879年（明治12）年、貝類研究に來日したモースの教え子佐々木忠二郎・飯島魁が日本人の手で初めて陸平貝塚を学術調査したことは著名である。その後、この地域の貝塚を多くの研究者が訪れ、黎明期の日本考古学研究の聖地となった。しかし、彼らによって出土品が運び出され、この地域には全く残らなかったという特異な状況を示している。

ここでは大阪歴史博物館に収蔵されている椎塚貝塚と福田貝塚の土偶について概要を述べ、両貝塚の地勢や学史的な位置付けについては別稿に譲る。両貝塚は霞ヶ浦の西南部から東に張り出した阿波丘陵の東西端部に位置する同じ地域の貝塚で、貝塚間は直線で約3kmの距離がある。

2 土偶の様相

椎塚貝塚・福田貝塚から出土した土偶は、現在大阪歴史博物館に100点以上が収蔵されている。1995年2～3月、それらの資料は茨城県立歴史館の「特別展 東国の土偶」の際に借用展示され、その際、実測を行った。このたび、共同研究報告書の刊行が計画され、椎塚貝塚・福田貝塚出土土偶の概要について記述することになったが、時間や紙数の関係から十分な検討ができない概略的な内容のものとなってしまった。

椎塚貝塚出土の土偶

椎塚貝塚出土の土偶は36点を図示した。タイプごとに概要を記述する。

ハート形土偶 1・2はハート形土偶である。1は胴部、2は左脚部であり、いずれも小型のものである。

山形土偶 3～35は山形土偶である。全体的な形状を残しているものは少ないが、椎塚系列と呼称した一群の代表的なものである。

椎塚系列は沈線文が主体に施文されて縄文施文がみられない一群であり、後述する福田系列とは縄文施文の有無によって区別され、福田系列がやや後出的と考えている。

椎塚系列の形態と文様意匠の特徴について部位ごとに記述する。

頭部 形態的に山形や楕円形を主体とし、顔面部にはT字状の隆帯が貼付されて眉・鼻が表現され、目・口は粘土粒を貼付して棒状具を押圧する刺突文がほとんどである。口部の粘土粒上には3～5のように円形の竹管が刺突されたものも多くみられる。

頸部には、左右の側面部から弧状の隆帯が貼り付けられ、隆帯上に刻みを有するものもある。また、

側面端部に耳栓の表現とみられる円孔を有するものが認められる。本群の特徴のひとつに後頭部中央の瘤状の突起がある。突出しただけで文様施文がないものもあるが、突出部の周縁に沈線文を周回させたもの、突出部に沈線で十字文を描いたもの、横位の沈線を描いたものなどがみられ、沈線文以外では竹管や棒状具を刺突したものもある。

頸部には文様意匠がみられないものも多いが、沈線を周回させたもの（4・5）、竹管刺突を施したもの（3・11）がある。

体部 山形土偶は豊満な体型が特徴である。なで肩で胴部は柔らかく括れて腰がやや張り、腹部は大きく膨らんでいる。胸部の乳房は身体に似合わないほど豊かで、体部の厚さと同じくらい突出しており、そのため欠落しているものも多くみられる。乳房の先端部には、沈線による円文や竹管刺突がみられるものがあり、乳首を表現したものと考えられる。

左右の乳房間から膨れた腹部にかけて隆帯が垂下しているものが多く、隆帯上には刻みが施されたものもみられ、沈線で正中線を表現したものもある。

腹部は大きく膨れ、中央に沈線による円文やボタン状の粘土貼付を有するものが多く、それらは垂下する正中線と連結している。両脇腹部は緩やかに括れ、腰部はそれほど張らないがふくよかさを感じる形状を呈している。

胸の上部や背中上段には2条の沈線による沈線区画文を有するものが多く、表裏で連結するものや脇腹部へ延びるものなどさまざまなバリエーションがみられるが、横方向への文様展開が基本モチーフと考えられる。

腰部から臀部にかけては鋸歯状の沈線文を有するものが多くみられるが、周回する横位の沈線文が施されたものもみられる。

四肢 腕部は肩からやや開いて付けられたものが多く、手先が外側へ若干開いているものがほとんどである。脚部は直線的なものが多く、爪先が突出する。脚部上段には周回する複数の沈線文がみられるが、沈線文が施文されないものもある。

大きさ 椎塚系列の大きさについては、完存品が少ないため推測でしかないが、3が12.4 cmと小型の土偶であり、中実土偶がほとんどである。慶応義塾大学民族学考古学研究室（以後慶応大学）所蔵のほぼ完存品は15 cmほどで3よりやや大きい土偶であり、4・5は慶應大学のものとほぼ同じ大きさの土偶の範疇に含まれると考えられる。また、東京大学総合研究博物館（以後東京大学）所蔵の中に、頭部と腕部を欠失した椎塚系列の中空土偶が知られており、それは頭部と体部の比較から25 cm前後の大きさが推定される大型の土偶であり、山形土偶の最大のものは30 cm前後の土偶も存在する。

木菟土偶 36は木菟土偶の右脚部片で、横位の微隆帯間に刺突文を廃し、古式の様相を呈している。

福田貝塚出土の土偶

福田貝塚出土の土偶は75点を図示した。一般的に福田貝塚と呼称した場合は、4か所から形成される福田貝塚中、最大の規模をもつ神明前貝塚を指す。この神明前貝塚の南西に位置するのが薬師台貝塚で、出土した山形土偶は神明前貝塚より後出的である。75点の中で薬師台貝塚出土と分類できるものは23点である。これらの資料もタイプごとに概略を記述する。

ハート形土偶 1・2はハート形土偶である。いずれも全体的な形状を残しているものではないが、1が頭上部、2が○脚状の左脚である。

筒形土偶 3は顔面部と体下部を欠失した筒形土偶で、形態的に茨城県那珂市戸立石出土の筒形土偶に類似し、薬師台貝塚からの出土である。

山形土偶 山形土偶は65点を実測している。これらの中には椎塚系列の35点が含まれているが、板状化の傾向が窺えるものもあり、新しい段階のものである。また、乳房などの細片は明確な分類は困難であるが、本群として分類した。

4～6は、山形土偶に影響を与えた土偶の様相を呈している。頭部は三角形(4・5)や楕円形(6)で、5・6の後頭部には山形土偶にみられるような瘤状の突出部を有している。乳房も豊満であり、東北地方の様相が窺え、4・5は薬師台貝塚からの出土である。

7～34は椎塚系列の土偶で、7～14は頭部片、その他は体部や四肢の破片である。10・13・14の後頭部の突出部は貧弱で、後出的である。35・36は崩れた形状を呈している土偶であるが、部分的に山形土偶の特徴がみられる。37は右脚部で、細かい円形の刺突文を有している。これらの中、17・20・22・26・32・33・35は薬師台貝塚からの出土である。

沈線文に縄文が施文された福田系列には、39～68が分類される。形状や沈線文施文などは椎塚系列と同様であり各部位の特徴については記述しないが、後頭部・体部表裏・四肢などに縄文施文が認められる一群で、バリエーションも多い。中でも背面上段や臀部、脚部には沈線で区画された縄文帯を有するものが多い。

42は、東京大学所蔵の標本番号166の頭部と接合するもので、平成7(1995)年の「特別展 東国の土偶」の際にはじめて確認された。その顔面部の形状からすれば、東北地方の特徴を有した土偶である。57は中空山形土偶の脚部片で、20cmを超える大型品と考えられる。59はやや膨れた腹部片で、下腹部の沈線区画内に刺突文が充填されている。背中には集合沈線を有しているが、山形土偶としてはやや異質である。これらの内、39・40・46・49・49・51・52・54・55・62が薬師台貝塚の出土である。

山形土偶の最終段階と考えられる69は、顔面表現がみられない土偶で、平坦な頭頂部に突起を有し、沈線区画帯に刺突を施した文様帯を、頭部から脚部にかけて配している。全体的な体軀形状は山形土偶的といえる小型の土偶であり、木菟土偶に先行するものと考えられる。

木菟土偶 木菟土偶は4点である。70は頭部を欠失した体部で、肩から外側へ直線的に開く形状の腕部と括れた胴部をもち、脚部は直線的である。腹部は大きく膨れ、刺突のみられる正中線は腹部中央のボタン状貼付文に垂下して連結し、より腹部の突出が強調されている。肩部から乳房と腹部に連結する隆帯上にも刺突がみられ、その他には縄文が施文されている。71は頭部片で、頭頂部の装飾突起を欠失し、顔面、後頭部に刺突列がみられる。73は大きな頭部片で顔面下半を欠失し、頭頂部には角状の装飾突起がみられ、後頭部にも欠失した突起の痕跡を残している。これらの木菟土偶は、70→71→73の時間的変遷が考えられる。

姥山系土偶 東関東域の古鬼怒川下流域ではI字文をもつ土偶や土版が盛んに製作されるが、当貝塚出土品はいずれも脚部片で、74はI字文と沈線による円文区画内に刺突を充填させた意匠がみられる右脚部で、中空である。75はI字文と想定される沈線区画内に縄文が施文された中実の右脚部で、薬師台貝塚からの出土である。いずれも脚部の大きさからすれば、大型の土偶と考えられる。

3 おわりに

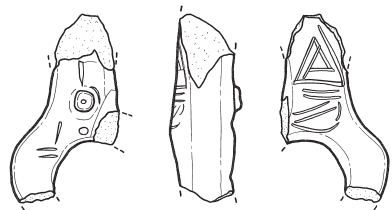
大阪歴史博物館に収蔵されている椎塚貝塚・福田貝塚出土の土偶について概観した。両貝塚とも収蔵されている土偶は、後期前葉のハート形土偶からみられ、後期中葉の山形土偶が主体である。椎塚貝塚では木菟土偶も収蔵されており、継続的に土偶がみられる。東京大学の標本番号 128 は椎塚系列の中空、標本番号 104・110 は福田系列の中空の山形土偶であり、いずれも大型品である。また、福田貝塚においては、木菟土偶や土版も収蔵されている。

椎塚貝塚・福田貝塚の所在する阿波丘陵と呼ばれる台地上での山形土偶の動きは、古式段階の主体は椎塚貝塚にみられ、その後福田貝塚へと主体が移動し、福田貝塚域でも神明前貝塚から薬師台貝塚へと主体が動いている状況が窺える。また、福田貝塚出土品の中には山形土偶に影響を与えた東北地方の様相をもつ土偶も含まれており、このような形状の土偶は椎塚系列の祖形と考えられる。

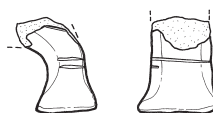
福田貝塚ではハート形土偶、筒形土偶がみられ、椎塚貝塚同様その主体は山形土偶の段階である。

両貝塚では椎塚系列・福田系列の双方がみられるが、福田系列の土偶は霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼周辺地域へと広がりを見せる。その後、この地域の山形土偶は板状で顔面部の輪郭を強調し、ボタン状の目・口を貼付した木菟土偶の誕生と大きく関わったと考えられ、木菟土偶は大宮台地周辺地域でより発展を遂げた。福田貝塚（薬師台貝塚）出土の 69 は、山形土偶と木菟土偶の中間期に位置付けられるもので、この段階の土偶が木菟土偶の成立に大きく関わったものであろう。木菟土偶が大宮台地周辺地域を中心に展開した後半、古鬼怒川下流域では I 字文をもつ土偶が作られ、その文様は土版の意匠としても発達していく。このように、霞ヶ浦南西部は後期前葉から晚期中葉にかけて連綿と土偶が作られていたと理解される。

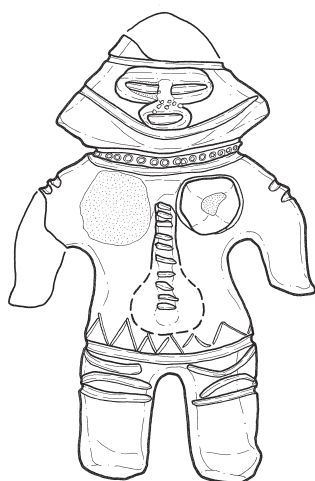
両貝塚とも土偶多出遺跡として知られているが、記述した土偶の多くがどのような状態で出土したか明確でない。また遺跡自体の構造や存続期間などについても不鮮明な点が多い。このような状況の中、両貝塚において集落規模が大きく、存続期間も長いために土偶が多く製作されたのか、あるいは短期間に多く製作されたのか判断することは困難であり、今後、各土偶の時期的帰属のさらなる検討によって、両貝塚の性格がより明確な形で理解できるのではないかと考えられるが、両貝塚とも霞ヶ浦地域では山形土偶の数の優位性を表出していることは確かである。



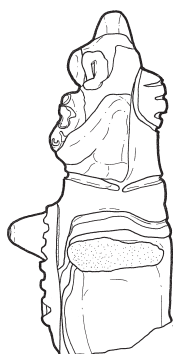
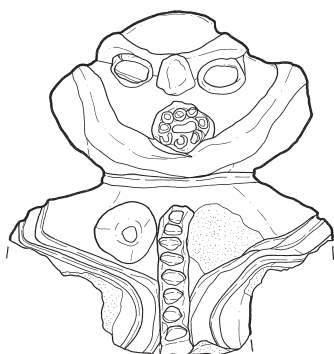
1



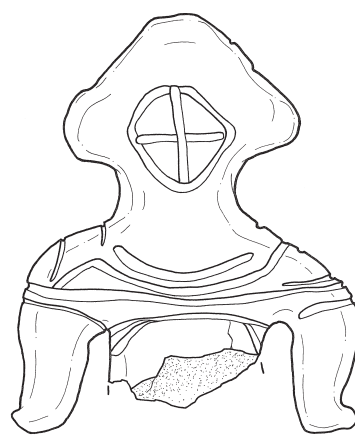
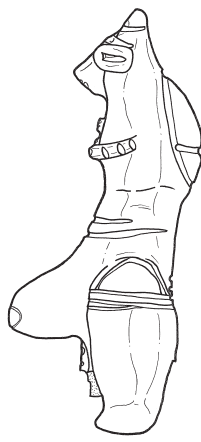
2



3



4



5



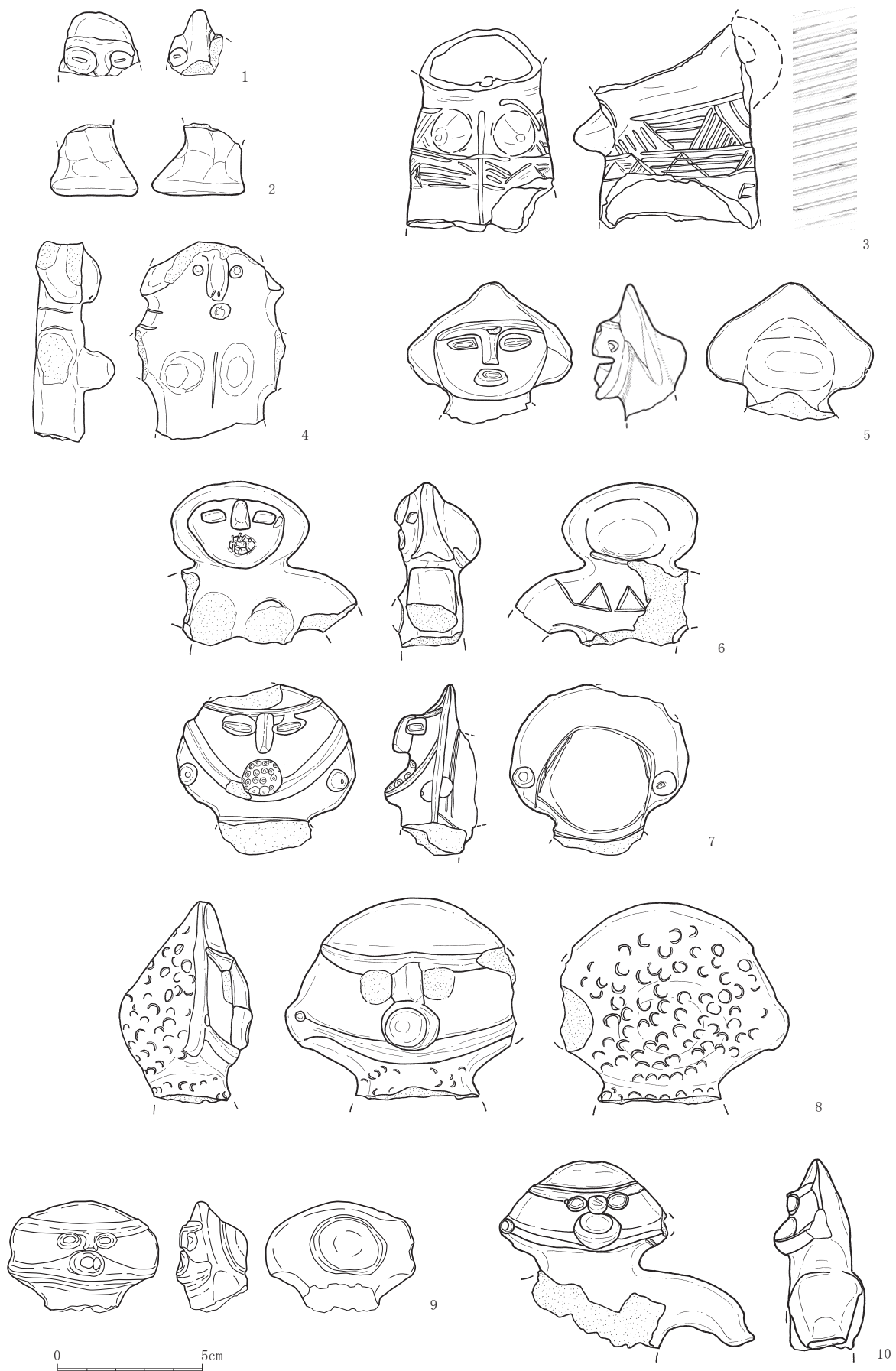
椎塚貝塚採集の土偶（1）



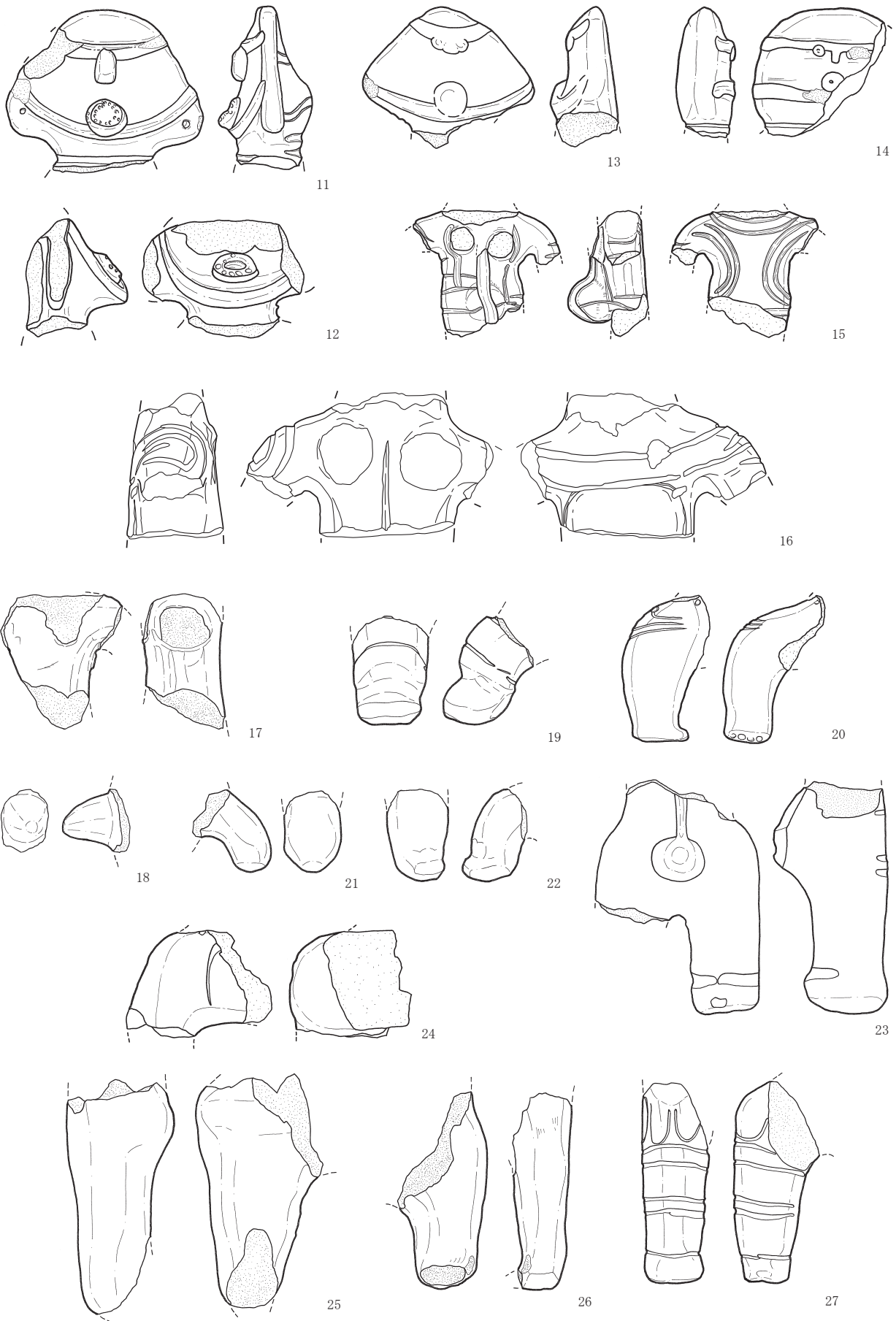
椎塚貝塚採集の土偶（2）



椎塚貝塚採集の土偶 (3)



福田貝塚・薬師台貝塚採集の土偶（1）



福田貝塚・薬師台貝塚採集の土偶（2）

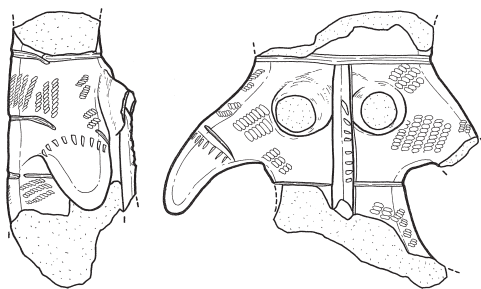
0 5cm



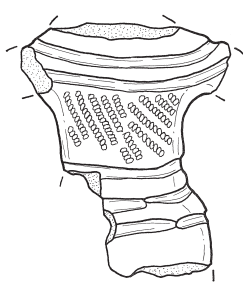
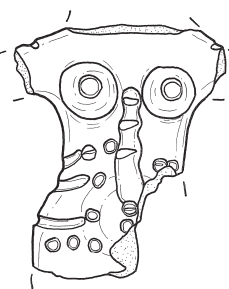
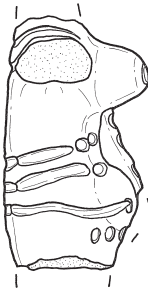
福田貝塚・薬師台貝塚採集の土偶（3）



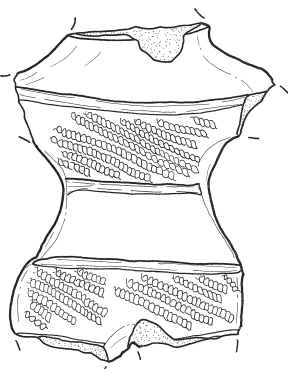
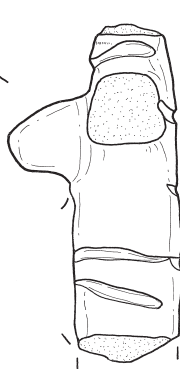
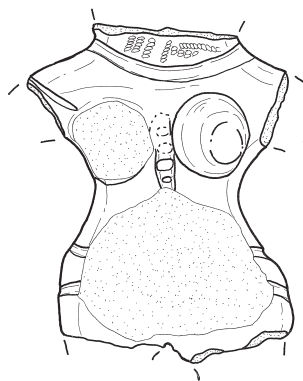
42



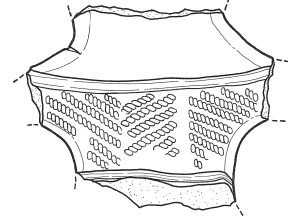
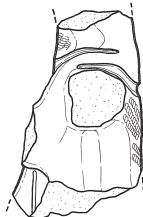
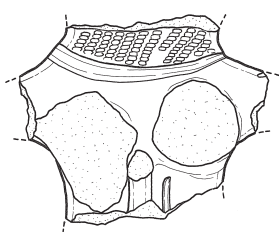
43



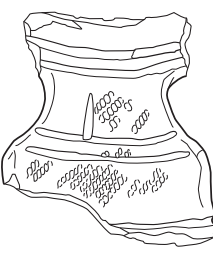
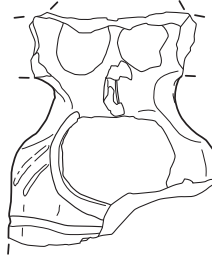
44



45



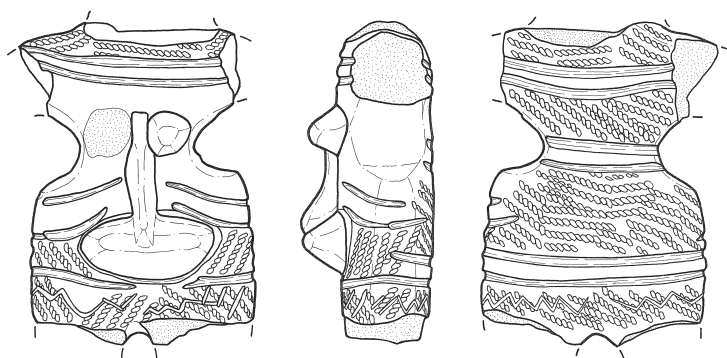
46



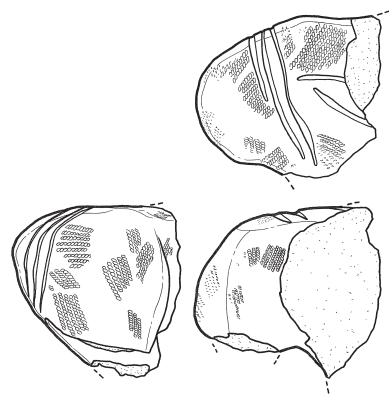
47

0 5cm

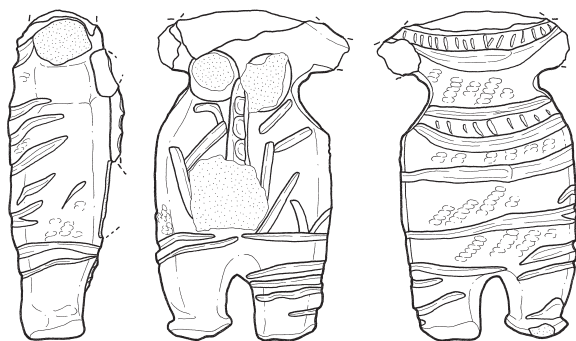
福田貝塚・薬師台貝塚採集の土偶（4）



48



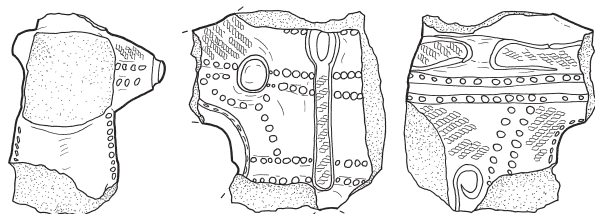
49



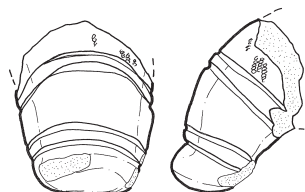
50



52



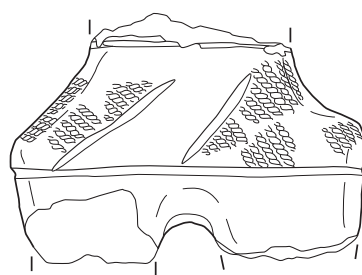
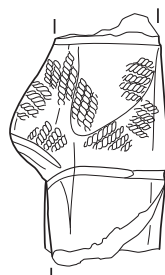
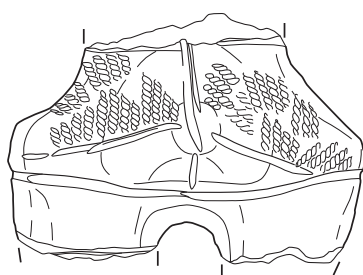
51



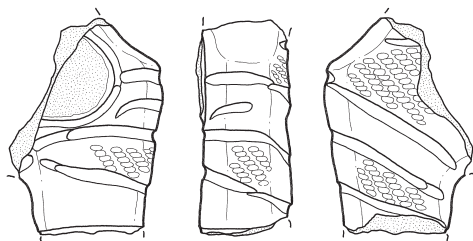
53



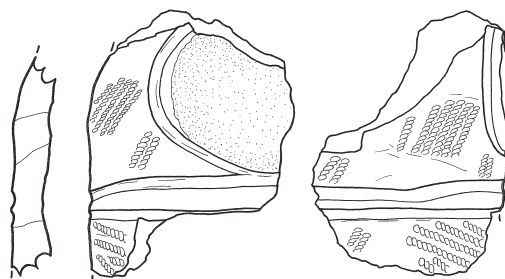
54



55



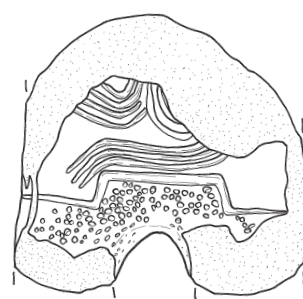
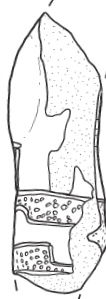
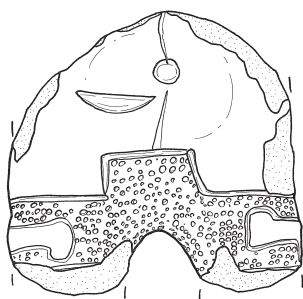
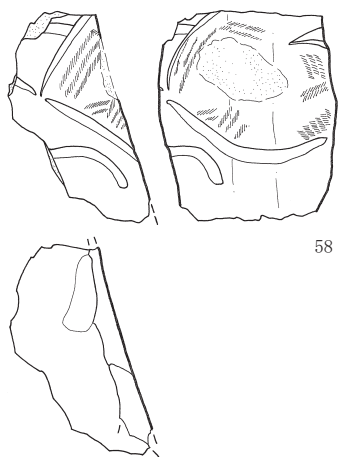
56



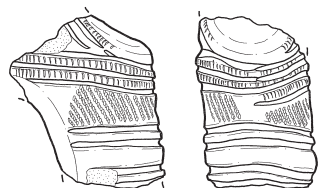
57



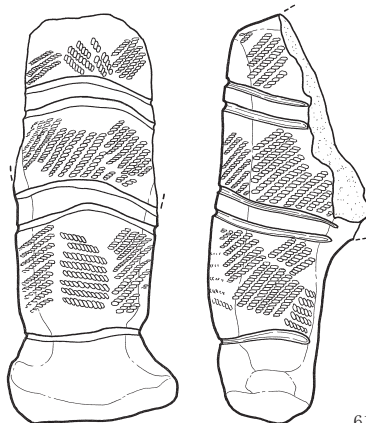
福田貝塚・薬師台貝塚採集の土偶（5）



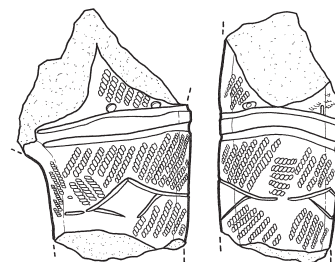
59



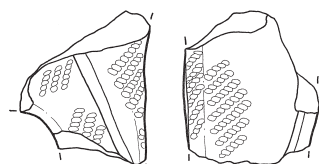
60



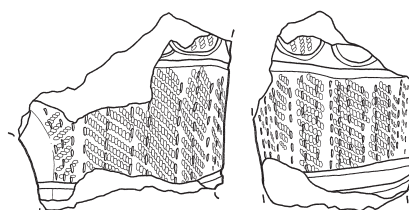
61



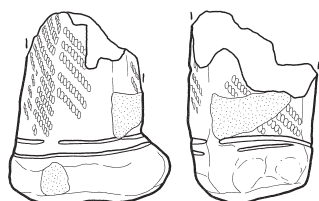
62



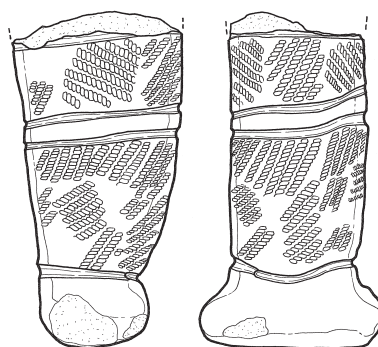
63



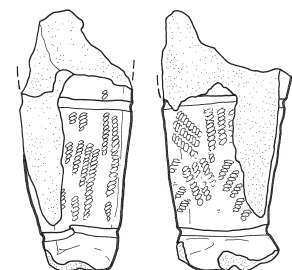
64



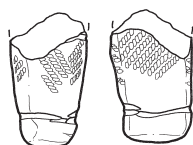
65



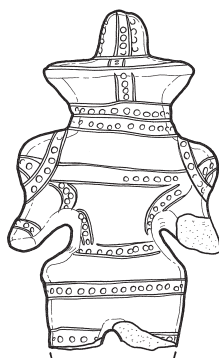
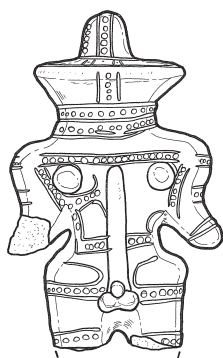
66



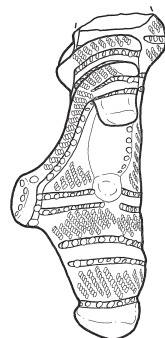
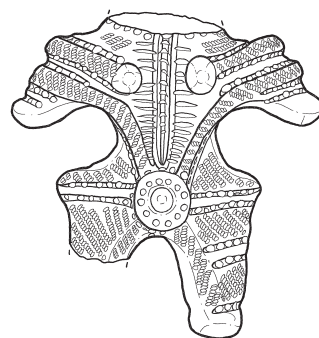
67



68



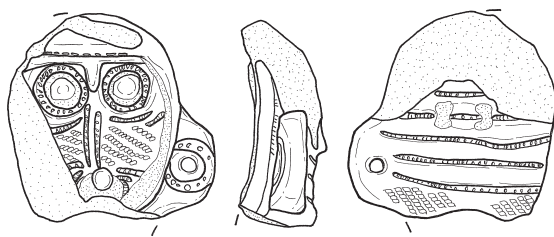
69



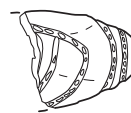
70

0 5cm

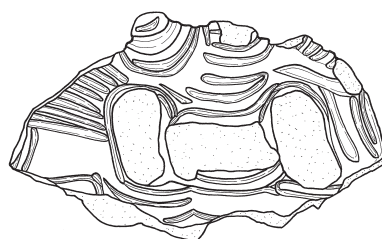
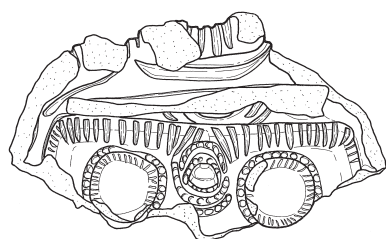
福田貝塚・薬師台貝塚採集の土偶（6）



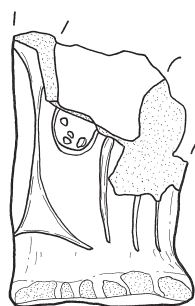
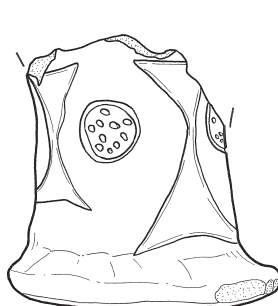
71



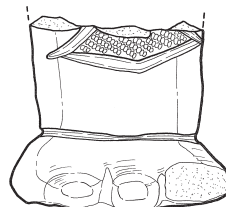
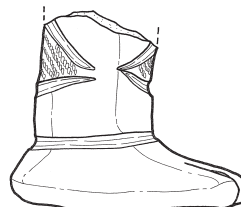
72



73



74



75

0 5cm

■下郷コレクション 福田貝塚・薬師台貝塚・椎塚貝塚土偶一覧

《福田貝塚・薬師台貝塚》

No.	管理 番号	枝番	遺跡名墨書	遺跡名	墨書位置	種 別	部 位	備 考
1	B074	42	フクダ	福田貝塚	割れ口	山形	頭部	
2	B074	69	福田	福田貝塚	外面	?	脚	
3	B074	72	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	内面	筒形	胴部	
4	B041		薬師	福田貝塚 (薬師台貝塚)	割れ口	山形	頭部～胴上半	赤彩
5	B032		薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形 (東北)	頭部	
6	B026		福田	福田貝塚	外面	山形	頭部～胴上半	
7	B027		福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	
8	B025		福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	
9	B038		薬	福田貝塚 (薬師台貝塚)	割れ口	山形	頭部	
10	B015		福田	福田貝塚	外面	山形	頭部～胴部	
11	B028		福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	接合面剥落 (漆もしくはアスファルト付着)
12	B029		福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	赤彩か
13	B074	41	福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	赤彩
14	B074	40	福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	
15	B047		福田	福田貝塚	割れ口	山形	胴部	
16	B014		福田	福田貝塚	外面	山形	胴部	赤彩
17	B074	74	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	右肩～胴部	
18	B074	44	福田	福田貝塚	外面	山形	乳房	
19	B074	47	福田	福田貝塚	外面	山形	右腕	
20	B074	81	薬	福田貝塚 (薬師台貝塚)	割れ口	山形	右脚	
21	B074	48	福田	福田貝塚	外面	山形	腕	
22	B074	49	福田	福田貝塚	外面	山形	腕	
23	B050		福田	福田貝塚	外面	山形	胴部～脚部	
24	B074	77	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	右腰	
25	B074	63	福田	福田貝塚	割れ口	山形	腰～右脚	
26	B074	80	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	左脚	
27	B074	61	福田	福田貝塚	割れ口	山形	右脚	
28	B074	64	福田	福田貝塚	外面	山形	脚	
29	B074	65	福田	福田貝塚	外面	山形	左脚	
30	B074	66	福田	福田貝塚	外面	山形?	脚	
31	B074	60	福田	福田貝塚	外面	山形	右脚	
32	B074	83	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	左脚	
33	B074	82	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	脚	
34	B074	62	福田	福田貝塚	外面	山形		
35	B016		薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	全身	
36	B074	43	福田	福田貝塚	外面	山形	頭部	
37	B074	45	福田	福田貝塚	外面	山形	右腕～胴部上半	
38	B052		フクダ	福田貝塚	外面	ミミツク	胴部	
39	B030		薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	頭部	
40	B031		薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	頭部	赤彩
41	B074	39	フクダ	福田貝塚	割れ口	山形	頭部	
42	B045		福田	福田貝塚	外面	山形 (東北系)	胴部上半	赤彩。東大所蔵資料と接合〔磯前・赤沢 1996 ; Plate138-3・4〕。
43	B051		フクダ	福田貝塚	割れ口	山形	胴部	
44	B046		福田	福田貝塚	割れ口	山形	胴部	
45	B053		福田	福田貝塚	割れ口	山形	胴部	赤彩
46	B074	73	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	割れ口	山形	胴部	
47	B044		福田	福田貝塚	外面	山形	胴部	
48	B048		福田	福田貝塚	割れ口	山形	胴部	赤彩
49	B074	78	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	右腰	赤彩
50	B049		福田	福田貝塚	外面	山形	胴部～脚部	
51	B069		薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	ミミツク	胴部	赤彩
52	B074	75	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面～剥落	山形	右肩～胴部	赤彩
53	B074	46	福田	福田貝塚	外面	山形	腕	赤彩
54	B074	76	薬師台	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	右腕	
55	B039		薬	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	腰	
56	B074	50	フクダ	福田貝塚	割れ口	山形	左腰～左脚上部	
57	B074	53	福田	福田貝塚	内面	山形	右腰	中空
58	B074	54	福田	福田貝塚	内面	中空	左腰	瘤剥落
59	B055		福田	福田貝塚	割れ口	山形?	胴部下半	
60	B074	67	福田	福田貝塚	外面	ミミツク	右腰	赤彩
61	B074	55	福田	福田貝塚	外面	山形	右脚	
62	B074	79	薬	福田貝塚 (薬師台貝塚)	外面	山形	左脚	
63	B074	51	福田	福田貝塚	外面	山形	腰	

No.	管理 番号	枝番	遺跡名墨書	遺跡名	墨書位置	種 別	部 位	備 考
64	B074	52	フクダ	福田貝塚	外面	山形	腰	
65	B074	57	福田	福田貝塚	外面	山形	右脚	
66	B074	56	福田	福田貝塚	外面	山形	脚	赤彩
67	B074	58	福田	福田貝塚	外面	山形	右脚	
68	B074	59	フクダ	福田貝塚	外面	山形	脚	
69	B008		薬師台	福田貝塚（薬師台貝塚）	外面	山形	頭部～脚上半	
70	B070		福田	福田貝塚	外面	ミミヅク	胴部～脚部	赤彩
71	B024		福田	福田貝塚	割れ口	ミミヅク	頭部	表採か？
72	B074	93	薬師台	福田貝塚（薬師台貝塚）	割れ口	ミミヅク	肩～腕	赤彩
73	B023		福田	福田貝塚	割れ口	ミミヅク	頭部上半	赤彩
74	B074	68	福田	福田貝塚	外面	I 字文	右脚	中空
75	B074	84	薬師	福田貝塚（薬師台貝塚）	割れ口	I 字文	右脚	
	B054		福田	福田貝塚	割れ口	山形	胴部	

《椎塚貝塚》

No.	管理 番号	枝番	遺跡名墨書	遺跡名	墨書位置	種 別	部 位	備 考
1	B074	16	椎塚	椎塚貝塚	外面	ハート形	胴～右脚	
2	B074	35	椎	椎塚貝塚	外面	ハート形	左脚	
3	B002		椎塚	椎塚貝塚	外面（背中）	山形	全身	「明治四十年一月」の注記あり。
4	B012		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	頭部～胴部	
5	B003		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	頭部～胴部	遺跡名の墨書注記下に三文字の別注記がある。判読は困難。
6	B013		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	頭部～胴部	
7	B021		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	頭部	
8	B058		椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	胴部	
9	B057		椎塚	椎塚貝塚	割れ口	山形	胴部	
10	B061		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	胴部	
11	B056		椎塚	椎塚貝塚	割れ口	山形	胴部	
12	B059		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	胴部	
13	B074	17	椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	胴上半	
14	B074	38	椎塚 薬師台	椎塚貝塚	割れ口	山形	左腕	赤彩。カルシウム付着。
15	B074	18	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	腕	
16	B074	37	椎塚 薬師台	椎塚貝塚	割れ口	山形	左腕	
17	B074	20	椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	腕	
18	B062		椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	胴下半	
19	B060		椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	胴部～脚部	
20	B074	34	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	右腰～右脚	
21	B074	29	椎	椎塚貝塚	外面	山形	左脚	赤彩
22	B074	30	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	右脚	
23	B074	31	椎	椎塚貝塚	外面	山形	左脚	
24	B074	32	椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	右脚	赤彩か
25	B074	28	椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	脚	
26	B074	33	椎	椎塚貝塚	外面	山形	左脚	
27	B020		椎塚	椎塚貝塚	割れ口	山形	頭部	赤彩
28	B074	22	椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	腰～左脚	赤彩
29	B074	19	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	右腕	
30	B074	27	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	左脚	
31	B074	26	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	腰～左脚	
32	B074	23	椎塚	椎塚貝塚	割れ口	山形	右脚	
33	B074	25	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	右脚	
34	B074	24	椎塚	椎塚貝塚	外面	山形	右脚	
35	B074	21	椎	椎塚貝塚	割れ口	山形	左腰～左脚	
36	B074	36	椎	椎塚貝塚	外面	ミミヅク	右脚	

《参考文献》

磯前 順一・赤沢 威 1996『東京大学総合研究博物館所蔵 縄文時代土偶・その他土製品カタログ（増訂版）』東京大学総合研究博物館 言叢社